

【此花区】 (受託者: (一財)大阪市コミュニティ協会)

取組実績の評価(1)

項目			ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 地域への支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施状況	「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組」	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	①ネットワークづくりとファシリテーター手法の導入により魅力的な事業づくりを支援 ②事業の効果検証による事業の充実を支援 ③自主財源獲得に向けた情報提供	①西九条地活協の意見交換会「四方山話」は、ネットワークづくりとファシリテーション手法を導入し、地域課題や事業について話し合われた。 春日出地域の担い手発掘と新規事業実施は、新メンバーによるコア会議においてファシリテーション手法を導入し、企画を進めることができた。 ②「コノまちインタビュー」実施により、課題解決に向けた子育て世代の意見等を収集できた。 「梅香地域さくらまつり」実施のアドバイスは、多団体の参加による調整や会計処理がスムーズに行われるよう支援した。 ③恩貴島地域に自主財源獲得の助言・アドバイスをしたことで「此花公園さくらフェスティバル」出店に繋がった。 自主財源獲得に向け、民間の機関が実施する各種助成金リストによる情報提供と他区での取得例は自主財源獲得の手段を広げた。	①西九条地活協は、ネットワークづくりとファシリテーション手法の導入などで、初めて地域課題や事業について活発な意見を交換することができたので有効であった。 春日出地域の担い手発掘と新規事業実施支援では、新メンバーによる地域単独事業への取り組みに繋がったので有効であった。 ②「コノまち」インタビューは、子育て世代のニーズ収集により事業の参加促進に有効である。 「梅香地域さくらまつり」実施のアドバイスは、盆踊り事業でも参考となり軌道にのり有効であった。 ③恩貴島地域の「此花公園さくらフェスティバル」出店は、自主財源獲得に繋がり有効であった。 各種助成金情報は、財源の選択が広がり、検討する地域もあり有効である。	①西九条地活協は魅力的な事業づくりのために事業の拡充や新規企画の意見は出されるが、キーマンが不在のため事業化は難しい。引き続き、ファシリテーション手法による意見交換会の支援を行う。 春日出地域の新メンバーによる新規事業実施にむけ担い手のワークショップや企画会議の支援を行い、次年度地活協への加入を勧め地域活性化を目指す。 ②地域の実情に合わせたインタビューの集計結果は次年度事業計画時期にフィードバックし、内容の改善に活用してもらう。 ③自主財源獲得に向けた支援については、地域の実情に合わせた事業や助成金情報を各地域へ提供し実現化していく。
		(2)「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	①地域活動の情報発信の強化(認知度向上)により幅広い参加を促進。 ②新たな担い手を発掘・育成する人材育成事業の実施。 ③新たな担い手層が参加しやすい事業における「参加」「参画」の場づくり。 ④魅力的な広報ツール・コンテンツづくりにより、事業参加促進 ⑤区内の企業・NPOと地域活動協議会とのマッチング	①情報発信の強化として、まちづくりセンターとして「地域活動協議会しんぶん」の発行やフェイスブック、YouTube動画で発信を行った。また、区役所内の地活協情報コーナーを運営し、地活協の取組情報を発信した。その他、「コノまちインタビュー」において、地活協の取組や概要について子育て世代を中心に説明をした。 ②地活協の新たな担い手に地活協の概要と適切な会計処理の勉強会を行った。また、会計処理の統一化とパソコン使用の普及のため会計Excel帳簿勉強会を行った。 四貫島地活協のフェイスブック講習により管理者を増やすことができた。 ③新たな担い手が参画するきっかけづくりのために、西島地活協1泊防災キャンプは大学生の災害ボランティアや地域の大学生によるプログラムを導入した。また、梅香・島屋地活協は新たな担い手層が参加する避難所開設訓練やワークショップの開催を呼びかけた。 ④魅力的な広報ツール・コンテンツづくりは、今年度に入って広報誌作成を3地域で支援し発行した。 桜島・島屋地活協広報紙は区内青少年団体とマッチングさせ、作成を委託して発行することができた。 ⑤「高見ワイわいフェスタ」「西島地活協1泊防災キャンプ」は、企業やNPOと「島屋ホテルのタベ」は区内団体とをマッチングさせ事業参画した。	①「地域活動協議会しんぶん」及びフェイスブック、YouTube動画は地活協への情報発信モデルの提示となるだけでなく、地域間・他区地活協とを繋いでおり有効である。 区役所情報コーナーは、多くの区民の目に留まるため広報紙作成のモチベーションがあがり有効である。 「コノまちインタビュー」は、地活協を知らない子育て世代に地活協の取組や概要について説明をすることで、認知され有効である。 ②地域がパソコンによる事務ができる担い手発掘のきっかけとなり有効である。四貫島地活協のフェイスブック支援により徐々に更新されているので有効である。 ③「参加」「参画」の場づくりにおいて西島地活協では、他団体との連携協働の必要性を認識した。また、梅香地活協の自主防災組織は若年層の担い手が増えたので有効である。 ④魅力的な広報ツールでは、桜島・島屋地活協広報紙作成は、区内青少年団体とマッチングしたことで全戸配布できたことで情報発信が強化された。また、島屋地活協は一度作成できたことで、地域が広報紙作成の担い手を発掘し、次回から自主作成される。 ⑤企業・NPOの専門性発揮や、さらに外部団体とのマッチングは事業が拡充され、地域とのつながりもできた。	①WEBによる広報は若手が入ることで徐々進むと考えられるが、役員の理解を得るためにフェイスブックやYouTube動画の検索講習を実施し、興味と有効性を認識してもらう。 区役所情報コーナー運営は広報紙の発行回数や枚数が少ないため、事業チラシなどの設置を依頼していく。 ②パソコンを活用した事務処理を進めるために、地域が担い手発掘や人材育成のきっかけになるよう引続き勉強会を開催していく。 ③新たな担い手が参加した取り組み事例の動画を他の地域事業で放映して担い手の増強を図る。 防災事業が進まない地域において、担い手の活動を、区役所担当課と連携し支援していく。 ④地活協広報紙作成の進んでいない地域は、広報担当者には負担感があるため、編集委員を設置し青少年団体とのマッチングも含め、支援していく。 ⑤地域では、講演会や研修会の講師選びは経費軽減もあり、難しい。企業・NPOとマッチングをすることで、内容が充実し経費削減にもなるため紹介していく。

	イメージ「Ⅰ」	(3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実施状況	事務の適正処理とネットワーク型の合意形成の促進の2点を軸に開かれた組織支援や会計の透明性を担保するとともに、まちづくり活動に必要な事務処理を地域住民自身で行えるよう助言・指導。 ①組織運営の支援 ②事業実施支援 ③広報支援 ④事業報告書の作成、決算、監査の支援	①区内全10地域活動協議会において、規約に基づいた運営委員会を開催し、適正な運営を行っているか確認した。事前支援の必要な地域は役員と打合せを行い、開催案内やレジュメの作成・進行などは地域で運営できるよう支援した(全17回)。 事業報告書、決算書の回覧と掲示や、議事録・会計書類を事務所内で閲覧可能とするための支援を行った。 ②主に新規会計担当者を対象に、適切な会計処理を行ってもらうために地活協補助金・委託料会計について勉強会を開催した。また、会計Exce帳簿を普及させるため個別勉強会も行った。 ③広報支援を必要とする地活協において編集会議のファシリテーターや作成の助言を行い、3地域で発行することができた。1地域でフェイスブックの講習会を実施した。 ④事業報告書、決算等については、H26年度監査・事業及び決算報告作成を支援した。H27年度決算報告に向けても、公開を前提とした、わかりやすい報告書・決算書の作成について勉強会を開催した。	①組織運営は、適正な会議運営、事業報告・決算書などの書類の開示もしており、開かれた運営が行われているので有効である。 ②新規会計担当者の引き継ぎができています。特に新しい担当者が会計Exce帳簿を活用しており、利用者が増えているので有効である。 ③広報支援については、広報紙を各戸配付し地域の様々な活動が多く住民に認知されたので有効である。また、ネット業者へ入稿をしたことで経費の軽減となった。 ④H26年度事業報告書、決算等については、監査・事業及び決算報告作成を全10地域で提出できた。事業報告決算等に便利な会計Excel帳簿の活用は、会計の透明性が図られ有効である。	①次年度は役員改選期でもあり、役員改選や仕事、曖昧になっている地域に関して整理確認していく。 ②事業計画に基づいた運営が行えるよう中間決算を行い、運営委員会で確認・共有できるよう支援していく。 ③広報支援については、負担なく作成できるように編集会議の開催を勧め支援していく。 ④事業報告、決算等については、会計Excel帳簿は活用されているが、さらに普及するため個別指導を行い実務化していく。中間決算期に完了事業の報告書を提出してもらい、確認する。次年度の事業計画や活動の課題について話し合いを支援する。
		(4)「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の実施状況 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イ				

取組実績の評価(2)

項目		ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 地域への支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施体制等	(1) 自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	・地域の自律運営についての理解が深まるような普及・啓発を図るために、企業に勤める人材がビジネスの経験やスキルを活かして社会貢献活動に取り組む「プロボノ」による地域課題解決に向けた具体的成果物の提供を通じて、地活協の活動基盤強化を支援する。	・梅香地活協の憩の家は高齢者以外の人の利用を増やし、自主財源の確保を図るため「プロボノ1DAYチャレンジ」に申請中。	・10月31日実施予定(現在申請中)	・10月31日実施予定(現在申請中)
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	スーパーバイザー 1人、アドバイザー 1人、地域まちづくり支援員 3人	スーパーバイザー 1人(子ども向け防災プログラム、プロボノプロジェクトの企画・実施支援)、アドバイザー 1人(週5日)、地域まちづくり支援員 3人(週3～4日)	地域からの相談や問い合わせがあった場合は、常に対応できる体制となっている。 子ども向け防災プログラムはスーパーバイザーによるワークショップや企画支援を行い、地域に合わせた事業化を進めている。プロボノプロジェクトは梅香地域で申請し、地域課題に取り組んでいる。	特になし
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	・まちづくりセンターの講習会や地域事業企画において、専門的な支援が必要な時の対応→スーパーバイザー 1人、専門アドバイザー 5人 ・欠員等が生じた場合の対応→アドバイザーが補充までの間対応 ・その他、問題・課題が生じた場合の対応→事務責任者(本部) 1人、	・春日出地域の新規事業でスーパーバイザーを増員してワークショップ実施や企画会議の支援に対応している。 ・職員ミーティングを随時開催し担当地域支援員が不在の時も地域に対応できるようにしている。	フォロー体制については、問題ないと考える。	特になし
	(3) 区のマネジメントに対応した取組	・住民参加の「津波避難訓練」と自主防災組織メンバーによる「避難所開設訓練」の推進。 ・区の補助金要綱に従った事業報告や決算書の作成。 ・区役所担当部署と調整・連携。	・防災担当と連携し、地活協防災事業が実施された。 ・会計勉強会の開催に向けて連携した。会計Excel帳簿や実績報告書もより透明性が図られるよう協議のうえ修正。 ・日々の情報共有及び適宜会議を行い、地域への対応にタイムラグが生じないようにしている。	・防災担当との連携により地域防災事業が事業計画に沿って実施され有効である。 ・地域からの相談が多い会計など事務処理に関しては区役所と連携し的確に対応することができた。 ・区役所担当部署と調整・連携は行政の新規事業などの説明会を運営委員会と同時開催することで地活協と意見交換もできたので有効である。	特になし

取組効果の評価

項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析	ウ 今後の改善策等
目標等の達成状況	(1) アンケート調査 ・地域が一体となって運営されている:○○%以上(区毎に設定) ・適切であると感じている:60%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる:50%以上	・97.3%が活動に役立ったと回答し、前年度から1.3ポイント増えた。個別回答では地活協の意義、適正な運営、会計事務の適正な執行に対する支援が90%を超え、地域課題やニーズに関する項目は80%前後と評価された。地域の活動や課題について話し合うことが活発になったとの評価が84.7%と前年度を大きく上まっている回答。自律的な地域運営の取り組みは69.2%ができていると回答している。今後のまちづくりセンターの支援は97.2%が必要と答え、必要ないは0%であった。 ・概ね予定通り進んでいる。	(目標達成) ・支援が評価されているのは、負担の大きい事務や地域課題の解決に向けた活動が取り組み、徐々にではあるが活性化がみられるためと考えられる。その要因は、適宜、事務や地域課題の個別相談に対応しており、また、運営委員会や企画会議において助言したり、課題解決に向けた支援行っている。	・特になし
	(2-1)「Ⅰ 地域課題への取組」達成状況	〈地域課題のニーズに対応した活動の実施〉 ⑥地域資源の有効活用に関しては、取組が順調に進んでいなかった地域において活動が始まっているが、CB・SB化は取り組んでいない。 ⑦適切な中間支援の活用は、主に区社会福祉協議会が、いきいきわくわくクラブ・子育てサロン、福祉アクションプランで支援しているので達成している。 〈法人格の取得〉 ②進んでいない	〈地域課題たニーズに対応した活動の実施〉 【目標達成】 ⑥役員交代やまちづくりセンターが、他地域の取組みを紹介したことで、自主財源の確保や地域を活性化したいという意欲が高まったため。 ⑦まちづくりセンターと区社会福祉協議会が会議や事業の情報を共有している。 【目標達成していない】 ⑥地域は、地域活動に対してボランティア意識が高いためCB・SB化には興味がなく、寄付やイベントの模擬店などで自主財源を確保しているおり必要性がない。 〈法人格の取得〉 【目標達成していない】 ⑥地域活動に対してボランティア意識が高く、CB・SBを実施するなど法人取得の土壌となるものがない。	〈地域課題たニーズに対応した活動の実施〉 ・CB・SBよりも、まず人材確保が課題となっているため、地活協の構成団体以外で活動している人たちとも話し合いができる場を構築し、地活協事業に盛り込んでいき活性化していく。 〈法人格の取得〉 ・他区の事例を紹介し、取得の意義を説明していく。
	(2-2)「Ⅱ つながりの拡大」の達成状況	〈これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進〉 ②構成団体が、回覧、チラシ、ポスター、WEBを媒体に連携・協働して広報を行っているので達成できている。 〈地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大含む)【地域活動協議会内部】〉 ④島屋地活協以外は防災・世代間交流事業・地域課題事業などで、地域団体や企業・NPOが参画し、事業が拡充したり新たな取組が行われた。 〈地域活動協議会と他の活動主体との連携・協働【外部との連携・協働】〉 ②島屋地活協以外は防災・世代間交流事業・盆踊りなどで区内の団体や企業・NPOが参画し、事業が拡充したり新たな取組が行われた。 〈地域公共人材の活用〉 ②公共人材の活用を説明しているが、進んでいない。	〈これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進〉 【目標達成】 ②地活協の構成団体主体事業が実行委員会形式となり、さまざまな媒体の活用が可能になってきている。また、運営委員会で活動情報の共有も行われており、連携・協働して広報することができている 〈地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大含む)【地域活動協議会内部】〉 【目標達成】 ④特に自主防災訓練は、役割が多くスタッフが必要であるため、連携・協働せざるを得ない。 【目標達成していない】 ④島屋地活協は学校の増築のため、昨年度は世代間交流事業などができなかったため。 〈地域活動協議会と他の活動主体との連携・協働【外部との連携・協働】〉 【目標達成】 ②先進事例の紹介をしたこともあり、各地域で門戸を開き連携・協働することで効果があがることが、認識されるようになってきた。そのため、まちづくりセンターが紹介した企業・NPO・地域団体が参画したほか、企画会議でも拡充する方向で合意された。 【目標達成していない】 ②島屋地活協は学校の増築のため、昨年度は世代間交流事業などができなかった。 〈地域公共人材の活用〉 【目標達成していない】 ②まだ、まちづくりセンターの支援で十分なため公共人材を活用するまでいっていない。	〈地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大含む)【地域活動協議会内部】〉 ・島屋地活協は世代間交流事業を実施し達成。 〈地域活動協議会と他の活動主体との連携・協働【外部との連携・協働】〉 ・島屋地活協は世代間事業交流の実行委員会の助言や外部団体を紹介していく。 〈地域公共人材の活用〉 ・地域の実情に合わせ、公共人材活用の紹介をしていく。

（イメージ）	(2-3)「Ⅲ 組織運営」の達成状況	〈議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営〉 ④議決が必要な総会・運営委員会は規約に基づいた適正な運営を行っている。 ⑤議決機関の議事録の広報紙、掲示板などの周知はしていない。 〈会計事務の適正な執行〉 ④事業計画書及び収支決算書等に関する書類を回覧・掲示・広報紙掲載を行っており達成している。 ⑤財産台帳は作成していないが、備品台帳は作成している。 〈多様な媒体による広報活動〉 ③電子広報媒体の活用は梅香及び四貫島地活協で実施している。 ④運営委員会で情報共有し、回覧や掲示以外に広報看板の設置や学校児童へ個別に周知された。 ⑤著作権・個人情報については、理解しているかは曖昧である。	〈議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営〉 【目標達成】 ④会議は事前準備で打合せを行い、まちづくりセンターも出席し適正な運営となるよう助言している。 【目標達成していない】 ⑤地域住民からの要望もなく、議事録は事務所にファイリングされ自由に閲覧できるようにしているため十分と考えている。 〈会計事務の適正な執行〉 【目標達成】 ④運営委員会において、事業計画・収支決算書等を掲示について説明しており理解しているため。 【目標達成していない】 ⑤会計帳簿の作成や事業報告書の作成で負担が大きく、繰越金利息のみとなっているため、作成に至っていない。 〈多様な媒体による広報活動〉 【目標達成していない】 ③2地域のみ始まっているが、その他の地域は役員が高齢者のため理解が得られない。 ⑤著作権・個人情報について広報担当者に対して、事例に応じ説明はしているが研修会は開催していないので理解しているかは曖昧である。 【目標達成】 まちづくりセンターは、運営委員会や企画会議で広報の重要性を説明し、そのつど助言しているため、理解が深まっている。	〈議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営〉(平成27年度中間)〔様式6〕 ・広報紙発行の際に運営委員会の議決内容をピックアップして載せるなど、地域住民が見やすい周知を進めていく。 〈会計事務の適正な執行〉 ・備品台帳の作成は指導していく。 〈多様な媒体による広報活動〉 ・WEBによる広報の検索方法を講習し、意義を説明していく。 ・広報担当者に対象の勉強会を実施していく。
	(2-4)「Ⅳ 区独自取組」の達成状況			
	(3)その他の効果のあった内容	地域の実情に合わせた支援をするために、年度当初に地域支援アンケートを実施した。	【目標達成】 アンケート結果や地域の現状から、勉強会、井戸端会議や運営委員会での先進事例の紹介と他地域の進捗情報を伝え、課題解決に向けて動きだしている。	

総合評価

総合評価Ⅰ	(1) 地域課題等の把握・分析・整理	①此花区は湾岸地域であることから、南海トラフ地震による津波からの防災・減災はもちろん、上町台地活断層による直下型地震などに備えることが、区全体及び地域の課題となっている。しかし、各地域の自主防災組織による訓練を実施するうえで、防災リーダーは従来の活動にはなかった活動に取り組む必要があり、そのためメンバーが高齢化している地域では特に進んでいない。また、地活協の地域割りも影響しており、校区が多くまたがっている、地域が広く町会に入っていないマンション住民が多いなど、地域を細分化する調整も必要で、実施するのに難しいことも進まない原因となっている。 防災訓練を実施している地活協は多くの参加者が集まり、住民の関心の大きさがわかるが、防災訓練は講演会や避難訓練など、内容も難しく集団行動のため、小さい子ども連れが参加できないイメージがあり、親子や若者の参加は少ない。 ②活動の担い手においては、高齢化が進んでおり何十年もメンバーや内容が変わっていない事業を実施している地域が多い。そのため、新しい担い手、特に世代が違うと受け入れがうまくいかず、担い手が育たない要因となっている。
	(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	①防災訓練や避難所開設訓練が進んでいない地域は、多様な主体の参加・参画を募る、自助・共助をテーマとした防災ワークショップの開催を呼びかけるなど地域の自主防災力向上に向けた取り組みを支援していく。主体団体には先進事例を紹介したり、防災訓練の見学を勧め、イメージづくりをしていき実施へと結びつける。コノまちインタビューで子育て世代の30～40才代に参加したい防災事業の調査をした結果、「子ども向け防災ワークショップ」が30%と一番多かったことから、親子の参加を増やすために、子ども向けの防災ワークショップの体験会を実施し、楽しみながら防災を学べる手法を学んでもらう。 ②担い手の高齢化対策は、地域活動に興味を持った新たな担い手が突然運営に携わるのではなく、防災や世代間交流事業など、多世代を対象にした事業に、新たにグループを受け入れていくよう地活協に働きかけていく。また、若い世代が多い学校関係団体に新たな事業を企画・運営できるようにアイデア出しや取組事例紹介、ワークショップを実施していく。
	(3) 区のマネジメントに合った取組	此花区は、「地区防災計画」を作成するにあたり、住民参加の「津波避難訓練」と自主防災組織メンバーによる「避難所開設訓練」に取り組む指針を出しているため、上記のように、まちづくりセンターが地域に防災訓練実施のきっかけづくりや新たな担い手の発掘と参画につなげる支援を行なっている。区役所とは随時、情報を共有し認識の統一を図っている。
Ⅱ		
総合評価Ⅱ	総合評価(全体)	・まちづくりセンターの活動が各地域活動協議会以外の団体にも認知されきており、地域活動協議会メンバーとの信頼関係が深まり、今までにない地域間の情報共有や事業参画への受け入れが行われるようになってきた。 ・防災訓練など行政が連携・協働した事業は、行政と地域との打合せ段階から事業完了まで入り、中間支援の役割が発揮できている。 ・防災訓練が進んでいない地域においても、新たなグループによる活動が始まるなど、支援により徐々にではあるが地域が活性化してきている。 ・組織の運営は、概ね適正な運営が定着してきており、会議では意見交換が行われてきている。広報の意義も理解され、広報紙の作成も順次進んでいる。